

広 場

他国のマナー 違い理解を

留学生
グエン ティ ト 33歳
理由を聞いて、日本人の考え方を理解できた。
新聞で外国人のマナーについての記事を読んだ。私はベトナムからの留学生で、この問題をとても身近に感じた。
国や文化が違えば、マナーも違う。私の国では電車の中で少し話すことは普通だが、日本では静かにすることが大切だ。そのため、悪気はなくても日本のマナーを守っていないと言われることがある。
私もアルバイト先でマナーについて注意されたことがある。その時は、日本で生活するのは難しいと感じた。だが、後で理由を聞いて、日本人の考え方を理解できた。その経験から、外国人は日本のマナーを学ぶことが大切だと思った。同時に、日本人にもマナーの違いを知り、優しく理由を伝えてほしいと感じた。
外国人も日本人も少しずつお互いを理解すれば、安心して生活できる社会になると思う。相手の立場で考え、間違いがあってもすぐに責めないことが大切だ。小さな思いやりが、良い人間関係につながると思った。
(広島市安佐南区)

ぎんぎん弾正

垣根涼介・作

<249>

第三章 行き違う人々(三)

義昭は、三好宗家と阿波三好家の和睦には、相当な難色を示し続けた。これにて義昭は、ようやく納得した。

が、信長の命を受けた明智光秀が粘り強く説得し、最後には首を縦に振った。信長から和睦に際し、阿波三好家の行動を縛る強力な付帯条件が提示されたからだ。

すなわち今後の阿波三好家は、畿内のことは宗家での合議決定に完全に従う。かつ、三好家の筆頭家老には、長を漏らすようになつた。

弾正の松永家と阿波三好家が、その宗家の筆頭家老には、長を漏らすようになつた。

が、その長女と棟梁との婚姻で、四国衆を左京大夫の組下話により、新たな血族として結びついたという報を受けたからであった。
「弾正は、何故にそこまでしわにした。
て阿波守と結びつかねばならぬのか。宗家の筆頭家老として」
「そもそも弾正は、宗家とかつての三好三人衆に対して、
そう、大いに不信感をあらわにした。
「そもそも弾正は、宗家とかつての三好三人衆に対して、
完全に劣勢に立った。だからこそ、わしを擁する織田家に与した。織田上総介の上洛に松永家の命運を賭けたのだ。確かにわしのことを保護してくれはした。されど、その時でさえ、わしを公方にするとは言わなかった」
むろんこの不満を聞いた光秀は、再び將軍家に出向いて説得をした。この縁組が阿波三好家の重臣、篠原長房の発案であり、迅速に和睦をまとめるため、弾正はそれに従うしかなかったことを説明したが、今度も義昭はなかなか納得しなかった。
これには別の事情も絡んでいた。
幕臣の和田惟政と畠山秋高の領土のことである。



ヤマモトマサアキ・画

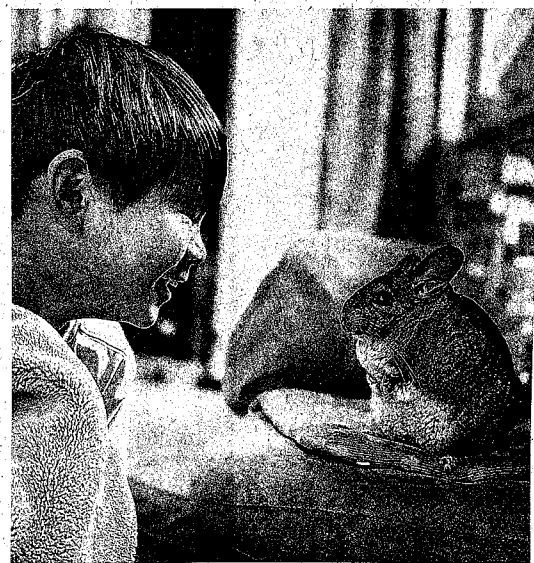
写ッター。

聞いて聞いて

角本 麻貴(広島県府中町)



投稿はこちら



ヤングスポット

過去の投稿は
ぶんタッチ



関わってくれる人 大事に

私は高校生に買ってもらった。つてはいけないう。友達は夜にスけが一緒にゲーをしたたりできなし、正直今でもしかし、全くホームルームのヨンに関する本い、それが相手感情的になり友のは厳しいルール、健康面にも大学に進めばかけて遊び、感れない。しかしうが、友達を傷い。私と関わりたい。